

## ②行政コスト計算書 (連結)

現役世代に対して、1年間に、資産の形成に結びつかない行政サービス(福祉サービスやごみ収集等)をどれだけ行ったのか、また、その費用を行政サービスに伴う収入(使用料や手数料等)で、どのくらい賅ったのかを表しています。

<b>A 費用(行政コスト)</b>	<b>234億9千万円</b>
人件費(職員の給料や各種手当等)	30億5千万円
物件費等(修繕料や光熱水費、減価償却費等)	63億5千万円
補助金等	68億4千万円
社会保障給付(児童手当の給付、高齢者や障害者への支援等)	64億3千万円
その他	8億2千万円

**解説** 行政コストには、建物や設備等の価値の「目減り分」も費用としてみなし、物件費等の中に、「減価償却費」として計上しています。

<b>B 収益</b>	<b>17億9千万円</b>
使用料および手数料	12億4千万円
その他	5億5千万円

**純行政コスト(A-B)** **217億円**

費用(行政コスト)から収益を引いた、純粋な行政コスト。1年間に現役世代の町民に提供した、純粋な行政サービスの額です。

**解説** 町民1人が1年間で受けた行政サービスの額は、約50万円になります。(純行政コストを令和2年4月1日現在の人口43,584人で割った金額)

## ④資金収支計算書 (連結)

1年間の「現金預金」の出入りの情報を、3つの区分《業務活動・投資活動・財務活動》に分けて表しています。(現金預金の期末残高は貸借対照表と一致)

期首(前年度末)残高	18億6千万円
<b>業務活動収支</b> (日常の行政サービスの実施に要する収入や支出等による現金の収支)	16億円
<b>投資活動収支</b> (固定資産の売却による収入や、取得による支出、基金の積立・取崩等による現金の収支)	▲14億2千万円
<b>財務活動収支</b> (町債の発行による収入や、町債の返済のための支出等による現金の収支)	▲1億6千万円
<b>期末残高</b>	<b>18億8千万円</b>

**解説** 投資活動収支の赤字は、施設整備の支出を賅えるだけの国県等補助金の収入が無いためです。また、財務活動収支の赤字は、将来世代へ過度な負担を残さないよう、地方債の借入額を返済額以内に抑えているためです。

表示単位未満の数値を四捨五入しているため、積み上げ合計と一致しないところがあります。

## ③純資産変動計算書 (連結)

行政コスト計算書から算出された「純行政コスト」を、どれだけの町税や国県等補助金の収入で賅えたのか、その結果、本町の純資産が1年間にどのように増減したのかを示します。

期首(前年度末)残高	796億円
<b>純資産の増加(a)</b>	<b>221億3千万円</b>
税金等	121億3千万円
国県等補助金	93億円
その他	7億円
<b>純資産の減少(b)</b>	<b>217億1千万円</b>
純行政コスト	217億円
その他	1千万円
<b>当期変動額(a)-(b)</b>	<b>4億3千万円</b>
<b>期末残高(純資産)</b>	<b>800億3千万円</b>

**解説** 純資産が1年間で4億3千万円増加し、本年度の純資産残高は800億3千万円となりました。(貸借対照表の純資産と一致)

## 令和元年度決算

# 武豊町の財務書類(連結)

問合せ 役場総務課

地方自治体の会計処理は、その年度にいくら収入があり、いくら支出したかという、現金主義の会計処理をしています。

この場合、現金の動きはわかりやすいのですが、これまでに整備した道路や公共施設等、現金以外の資産や借金のような負債の保有状況等が見えにくいといった問題点があります。

そこで町では、現金を使って手に入れた資産や負債にも着目した、企業会計的な考え方に基づき「4つの財務書類」を作成し、公表しています。

※平成28年度決算からは、総務省が示す「統一的な基準」に基づいて作成しています

つまり、財務書類を作成することで、お金以外の部分も含めて、町の状況を確認できるんです。

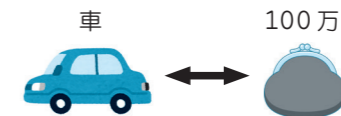


■連結決算で作成します  
連結決算とは、町が関係する、全ての会計や団体の決算をまとめたものです。

- 一般会計
- 特別会計等(国民健康保険・後期高齢者医療・介護保険・集落排水・下水道・水道)
- 一部事務組合

もし1つの会計が健全でも、他の会計に赤字があると、町全体の財政を圧迫する可能性もあるから、連結するんだね。

### ■企業会計的な考え方



100万円を使って車を買ったと、100万円分の価値のある車を資産として入手。

現金 = -100万円  
資産 = +100万円

### ■地方自治体の会計処理



100万円を使って車を買ったと、100万円の支出のみを把握。

現金 = -100万円

単純に現金の支出だけを把握するのも見やすいけど、資産にも着目することで、より詳細な情報がつかめるんだね。



## ①貸借対照表 (連結)

町が保有する資産(固定資産・現金)や、借金等の将来的な負債がどのくらいあるのかを表しています。資産と負債・純資産が釣り合うようにつくられているため、「バランスシート」とも呼ばれています。

<b>A 資産(保有している財産)</b>	<b>959億9千万円</b>
事業用資産	295億1千万円
インフラ資産	590億6千万円
物品	4億9千万円
基金	45億3千万円
現金預金	18億8千万円
その他	5億2千万円

<b>B 負債(将来世代※の負担分)</b>	<b>159億7千万円</b>
地方債等(借金の残高)	129億円
退職手当引当金 (全職員が年度末に退職した場合に必要な退職手当の見込み額)	24億円
その他	6億6千万円
<b>純資産(A-B)</b>	<b>800億3千万円</b>
これまでの世代が、既に負担してきた金額	

※将来世代:次年度以降、武豊町に住んでいる町民 ← 現役世代

**解説** 「事業用資産」は学校等、町民の生活に密着した資産。「インフラ資産」は道路や公園等、まちづくりの基盤となる資産。資産は、買った時の価格を基に、老朽化を考慮した現在の価値で示しています。

**解説** 決算書では、お金の出入りしか把握しないので、退職金等の将来発生するものまでは見えませんが、ここでは将来的な負担も含めています。